

## セネガル共和国話題集

セネガルは、西アフリカ沿岸部に位置する共和制国家。北にモーリタニア、東にマリ、南にギニア及びギニアビサウ、内部ガンビア川沿いにガンビアと国境を接し、西は大西洋に面している。1960年の独立以来一度もクーデター、内紛を経験しておらず、西アフリカにおいて突出した政治的安定を誇る。また、西アフリカの入り口に位置し、宗教的にも穏健であることなどから、地政学的に重要視されている。

### 基礎情報

- ・面積：19.7万平方キロメートル  
(日本の約半分)
- ・人口：1,674万人(2020年)
- ・首都：ダカール(人口約353万人)
- ・民族：ウォロフ44%、プル23%、セレール15%他
- ・言語：フランス語(公用語)、ウォロフ語など各民族語
- ・宗教：イスラム教94%、キリスト教5%、その他伝統的宗教など1%



### 国旗

1960年のマリ連邦からの分離独立時に制定された。緑は農業と希望、黄は富と資源、赤は独立の苦難と尊い血の犠牲、中央の星は自由を表している。

### 国名

セネガルの国名は、諸説あるが、地域を流れるセネガル(ウォロフ語で「我らのカヌー」の意)川に由来するとも言われる。

## セネガル略史①

### 1 起源

8-11世紀頃、ガーナ王国が現在のセネガル東部地域を支配。13-15世紀にはマリ帝国の支配下に置かれた。



ガーナ王国(8~11世紀頃)  
(現在のガーナ共和国と位置が異なる)

### 2 欧米諸国間の争奪戦(奴隷貿易の拠点)

1444年にポルトガル航海士のディニス・ディアスがダカールとその沖のゴレ島を発見、欧州諸国との関係が始まった。ゴレ島はアフリカから米大陸へ奴隷を供給する大西洋三角貿易の拠点として注目され、16世紀に入るとポルトガルに続いてオランダやイギリスの商人も進出、1627年にはオランダ人奴隷商人がゴレ島を支配した。その後、1638年にフランスがセネガル北部のサン＝ルイに商館を建設し、1677年にはゴレ島をオランダから奪取、1815年のウィーン会議において、サン＝ルイ島及びゴレ島はフランスの植民地とされた(フランスは1848年に奴隷貿易を廃止)。



奴隷貿易の拠点となったゴレ島  
(現在はユネスコ世界遺産)

## セネガル略史②

### 3 仏領西アフリカの総督府

1854 年、フランスは、重商主義政策に基づき、サン＝ルイに仏領西アフリカ（現在のモーリタニア、セネガル、マリ、ギニア、コートジボワール、ニジェール、ブルキナファソ、ベナン）総督府を設置（1902 年にダカールに遷都）。ルイ・フェデルブ将軍が総督に就任し、現地の諸王国を征服後、ダカールの都市建設、鉄道建設、落花生栽培などの植民地化政策を推進し、仏領西アフリカ経営に本格的に乗り出した。

セネガルはフランスの植民地であったものの、4 つのコミューン（サン＝ルイ、ゴレ、ルフィスク、ダカール）には自治権が付与された。1914 年には黒人初の仏国民議会議員として、ブレイズ・ジャーニュ議員がゴレから選出された。1958 年にはセネガルはフランス共同体内の自治国となった。フランス植民地下で、セネガル人はフランスの戦争に動員され、19 世紀の西アフリカ植民地化戦争や 20 世紀の第一次世界大戦、第二次世界大戦、インドシナ戦争、スエズ戦争などに参加した。



仏植民地時代のサン＝ルイの町並み



仏領西アフリカ総督府  
（現在のセネガル大統領府）

### 4 独立

1959 年、セネガルは仏領スーダン（現在のマリ）とともにマリ連邦を結成し、1960 年 4 月 4 日に独立を達成（4 月 4 日は現在でもセネガルの独立記念日）。その後、同年 8 月 20 日にマリ連邦から分離独立して、セネガル共和国として単独国家となった。

## セネガルの自然・世界遺産①

### ゴレ島

かつて奴隷貿易の拠点であったゴレ島には奴隷の館が残り、1978 年以来ユネスコの世界文化遺産に指定されている。1984 年に皇太子同妃両殿下（当時。現在の上皇上皇后両陛下）が御訪問されたほか、2003 年にブッシュ米大統領（当時）、2013 年にオバマ米大統領（当時）が訪れるなど、各国要人の訪問も多い。



### バオバブの木

セネガルはアフリカ大陸の最西端に位置する。セネガルの景観は、主に西サヘル特有の砂ぼこりが多く乾燥した平原地帯で占められる。また、地方に行けば、サン＝テグジュペリの「星の王子様」のモチーフとなったバオバブの林があり、セネガル独特の景色を見ることができる。



## セネガルの自然・世界遺産②

### ラックローズ

パリ・ダカル・ラリーのゴール地点として知られたラック・ローズ（「桃色の湖」。ダカルの北東約 45km）は、その名のとおり塩分濃度が高く、気象条件等が適えば水が桃色に見える。湖の周辺は砂丘であり、塩田で作業する人々の姿が見られる。



## セネガルのスポーツ①

### パリ・ダカル・ラリー

日本でダカルといえば、2 週間にわたりサハラ砂漠を縦断して行われ、世界一過酷なレースと言われる「パリ・ダカル・ラリー」（通称「パリ・ダカ」）が有名。パリ・ダカ 30 周年にあたる 2008 年のダカル・ラリー直前に、ルートがあるモーリタニアで仏人観光客 4 名がテロリストに殺害され、パリ・ダカ史上初めて中止となった。2009 年から南米開催となり、2020 年からは中東で開催されている。

ダカル郊外ヨフ市には、ラリードライバーの篠塚建次郎氏が 2002 年に建設した「篠塚小学校」があり、文房具供与等の交流がなされている。



篠塚健次郎氏と篠塚小学校の児童たち

### サッカー

セネガルのサッカーは近年実力を蓄え、2002 年のサッカーW杯日韓大会では、初戦で前回優勝したフランスに勝利し、ベスト 8 入りした。また、セネガルのナショナル・チームはキャンプ地の静岡県藤枝市に滞在し、地元住民との交流を行った。

16 年ぶりの出場となった 2018 年W杯ロシア大会では、日本と同じグループ H となり、2-2 で引き分けた（日本はベスト 16、セネガルは予選リーグ敗退）。

なお、サル大統領はサッカー好きで知られ、2017 年の訪日時（UHC フォーラム）には、安倍総理（当時）と日・セネガルのサッカーユニフォームの交換を行った。

2020 年 11 月、セネガル代表（MF）として活躍した元サッカー選手パパ・ブバ・ディオプ氏が難病の闘病生活（筋萎縮性側索硬化症：ALS）の末に 42 歳で逝去。同氏は、2002 年のサッカーW 杯日韓大会の開幕戦で決勝ゴールを挙げるなど、セネガル史上初の決勝リーグ進出、8 強入りの立役者となった一人。同氏の逝去は国民に大きな衝撃を与え、サル大統領が国葬に出席、国家勲章を授与し、建設中のサッカー博物館に同氏の名前を付けることを発表した。

2022 年 2 月にはアフリカ・ネイションズカップでセネガルがエジプトに勝利して初優勝し、チーム全員が国家勲章を受章した。



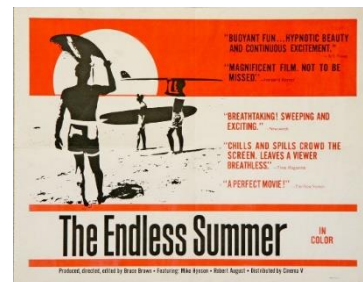


## セネガルのスポーツ②

### サーフィン

サーファーの間で著名なサーフィン映画「エンドレス・サマー」(1966 年公開、米国、ブルース・ブラウン(サーファー)監督)では、セネガルが舞台の一つとなっている。

この映画を見てダカール(ンゴール島)にサーフィンに来る観光客もいる。2026 年にセネガルで開催される予定のユース・オリンピックでは、初めてサーフィンが競技に採用された。



### 柔道・空手

柔道は約 6,000 人の競技人口を有し、北部サン＝ルイにて 1998 年以降、毎年国際大会が開催されている。2020 年オリンピック東京大会にはアフリカ選手権で 2 度の優勝経験を有する男子柔道のンバニック・ンジャイ選手が出場したが、入賞はなかった。

日本大使館も「柔道大使杯」、「空手大使杯」を開催している。

### セネガル相撲

11 世紀頃にセネガル南部等で、体躯の大きいセレール(農耕民族)族が農閑期(乾季)に家畜や農作物等を賞品として試合を行っていたのが発祥と言われる。セネガルでは、サッカーと人気を二分する国民的競技。日本の相撲より広い野外の土俵(直径 30m 程度)で行われる。試合の前には、選手、取り巻き、マラブー(呪術師)による伝統宗教の儀式が行われる。

選手は、取り巻きによるセネガル太鼓による音楽とともに入場する。選手は、マラブー作成の山羊や蛇、ライオンの皮で出来たお守りやコーランを書いた紙などを身につけ、マラブーの調合した秘密の液体(大きな試合では 100 リットルに及ぶことも)を頭につけ、ダンスを踊りながら神への感謝と勝利を祈願。試合では、腰布のみになり戦う。

1992 年、NHK 企画番組の一環で、故・二子山親方(初代横綱若乃花)が、相撲のルーツを訪ねてセネガルを訪問した(注:セネガルの他に、韓国、モンゴル、スイス、トルコ、エジプトも訪問)。本件訪問は、『二子山勝治・相撲ルーツの旅』(NHK 取材班・石田雄太著、NHK 出版、1993 年)として書籍化もされ、セネガル相撲については、神に捧げる感謝の儀式について焦点を当てている)。

### ビーチサッカー

セネガルのビーチサッカーチームは 2021 年のアフリカ選手権で 6 度目の優勝を果たした強豪。世界ランキングは 9 位で、2021 年のワールドカップでは準決勝で日本に敗れ、最終的に 4 位となった。



柔道日本大使杯の様様



## セネガルの文化・音楽・風俗・宗教①

## 星の王子様

フランスの小説家、アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ(1900年-1944年)は、航空郵便パイロット時代にカサブランカ・ダカール間の飛行中サハラ砂漠に墜落した経験に基づき「星の王子様」をサン＝ルイのホテルで執筆したと言われている。

## 伝統音楽

セネガルには、マンデ系の民族に伝わる伝統的音楽家の家系グリオが、ジャンベ・サバール・コラ・タマなどの打楽器を演奏する伝統音楽が今なお生き残っている。

2008年5月に横浜で開催された第4回アフリカ開発会議(TICADⅣ)のサイドイベントとしてセネガルの人間国宝であるパーカッションистの故ドウドウ・ンジャイ・ローズのコンサートが開催された。また、2013年1月、第5回アフリカ開発会議(TICADⅤ)の名誉大使である歌手のMISIAがセネガルを訪問し、故ドウドウ・ンジャイ・ローズと協力し、TICADⅤ応援ソングである、「MAWARE MAWARE」を制作した。

## ユッスー・ンドゥール

セネガルの伝統音楽に、さまざまな民族音楽や欧米のポップ・ミュージックのエッセンスを取り入れ、独自の音楽世界を展開しているセネガル音楽界の大御所。1998年のフランス・サッカーW杯の開会式で、テーマ曲を歌ったことでも有名。2008年のTICADⅣには個人招待者として参加したほか、TICADⅣの機会にMISIAが開催した「Africa Benefit Live Yokohama」ライブにゲスト出演した。さらに、2017年10月には第29回高松宮殿下記念世界文化賞・音楽部門を受賞した。

## 料理

セネガル料理は豊富な近海魚、羊、鶏などを使った料理が多く、米が日常的に食べられている。チョップ（ハタ科の高級魚）等の魚で作る炊き込みご飯「チェブジェン」（2021年12月にユネスコ無形文化遺産に登録）、羊肉の炊き込みご飯「チェブヤップ」が代表的セネガル料理である。味付けは主にトマトソースであるが、激辛の唐辛子が添えられている。また、「ヤッサプレ」という鶏と野菜を玉ねぎソースで煮込んだ料理も一般的。



ドウドウ・ンジャイ・ローズ氏の演奏  
(於：大使公邸)



チェブジェン



ヤッサプレ



## セネガルの文化・音楽・風俗・宗教②

### 穏健で寛容なイスラム教

セネガルのイスラム教は非常に穏健で、他宗教にも寛容。女性の服装も比較的 자유。全イスラム教徒の約 95% が四大教団と呼ばれる地元の主要宗派のいずれかに属しているとされる。穏健な教義を持つ各教団が信徒を強力に繋ぎ止めていることから、原理主義思想が浸透しにくい土壌が存在する。

イスラム教団は政府と国民をつなぐパイプ役でもあり、特にムリッド教団など有力教団の政治的発言力は強い。

### 映画

セネガル人監督による著名な映画として以下の 4 作品が挙げられる。

◆「Atlantique (邦題: アトランティックス)」 マティ・ジョップ監督 (仏・セネガル国籍) 2019 年 (日本では同年に Netflix で配信)



カンヌ国際映画祭でのジョップ監督 (中央)

ダカールの過酷な生活から抜け出すために欧州行きの移民船に乗る青年と、故郷に残された婚約者の恋愛を描いたもの。2019 年のカンヌ国際映画祭でパルムドールに次ぐ第二席の審査員グランプリを受賞。女優でもあるマティ・ジョップ監督 (38 歳) は、カンヌ国際映画祭では同賞に輝いた初の黒人女性監督として注目を浴びた。

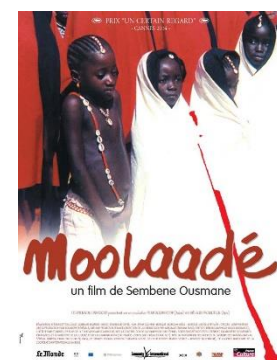
◆「Le mandat」 ウスマン・ソンベヌ監督 (セネガル国籍) 1968 年  
フランスに移民した甥から届いた仕送りが発端となり、セネガルの小さな町で様々な問題が生じる様を描く大衆映画。ウスマン・ソンベヌ監督の代表的作品。同作品はヴェネツィア国際映画祭で賞を受賞した。



◆「Ceddo」 ウスマン・ソンベヌ監督 (セネガル国籍) 1977 年  
宗教抑圧に対するセネガル国民の抵抗を示す政治的映画。ムスリムや奴隷貿易による伝統社会の崩壊を取り上げた本作品では、部族の王女を中心に抵抗の精神を描いている。

◆「Moolaadé (邦題: 母たちの村)」 ウスマン・ソンベヌ監督 (セネガル国籍) 2004 年 (日本では 2006 年に公開)

古来より、身を清めるために行われてきた女子割礼の儀式から 6 人の子供たちが逃げ出すところからストーリーが始まる。2004 年のカンヌ国際映画祭ノミネート作品。



### 俳句コンクール

1977 年に当時の内田大使がセネガルに紹介した俳句は、1979 年以降日本大使館主催の俳句コンクール等を通じて今日まで人気を博しており、一部学校教育にも取り入れられている。

## 新型コロナ対策

### 国際社会からの高い評価

迅速な初動（行動制限や国境閉鎖等）、信頼の置ける検査体制の構築など、セネガルの新型コロナ対策は国際的にも高く評価され、2020年9月のForeign Policy 誌による世界ランキングではNZに次ぐ第2位にランキング。

### 日本による新型コロナウイルス感染症対策支援

セネガル政府の新型コロナ対策基金への拠出（見返り資金）、医療機材・衛生キットの供与、食糧援助、国際機関（UNICEF、UNIDO）経由の支援、JICAを通じた啓発活動、ワクチン関連支援（COVAXへの拠出、ラスト・ワン・マイル支援によるコールドチェーン整備、COVAX経由のAZワクチンの供与）などを実施。



## 日本との関係

### 日・セネガル外交樹立 60 周年

日本は1960年10月4日にセネガルを国家承認し、1962年1月6日に仏語圏アフリカの中では初となる大使館をダカールに開設した。

2020年は日・セネガル外交関係樹立60周年及び海外協力隊派遣40周年。セネガル在留邦人がデザインした記念ロゴマークは、日章旗とセネガルのシンボルであるバオバブにより両国の友情を表現。



60周年記念式典（於：大使公邸）

### 皇室のセネガル御訪問

1984年2月、皇太子同妃両殿下（当時。現在の上皇上皇后両陛下）がセネガルを御訪問された。両陛下は、児童福祉施設、タピスリー工場、日本支援による職業訓練センター、ゴレ島等をご訪問され、セネガル国民の大きな歓迎を受けたほか、日本から派遣されていた青年海外協力隊員を激励された。

### 活発な要人往来

2019年にはセネガルからサル大統領が2回（G20大阪サミット及びTICAD7）、閣僚が延べ14名訪日（即位礼正殿の儀にはホットウ経済・計画・国際協力大臣が参列）。日本からは、山田外務大臣政務官（当時）、北村総理特使及び中谷外務大臣政務官（当時）が訪問。中谷政務官は2020年2月にもアフリカ貿易・投資促進官民合同ミッション（日本企業20社が参加）を率いて再訪。2021年1月には、日本の外務大臣として10年振りに茂木大臣がセネガルを訪問し、サル大統領やタル外相らと会談した。



貿易・投資促進官民合同ミッション

（了）